

校園長室から



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和 7 年 5 月 1 日 第 52 号

大唐西域記

観劇で「西遊記」を見ました。

中国の四大奇書の一つ。奇書とは、珍しくて面白くて貴重な本という意味。「西遊記」以外に「三国志」、「水滸伝」、「金瓶梅」という四冊で四大奇書。個人的には、「水滸伝」が一番好きかな。

ところで、「西遊記」は、中国の唐の時代、劇にも登場した玄奘三蔵が中国で仏教を広めようと、一人でインドまで仏典を求めて歩いた史実がもとになっています。

唐の時代は、日本では、平安時代。当然、車も電車も飛行機もありません。靴だって、今のように研究された登山靴などあるはずもなく、テントや携帯コンロなど、アウトドアグッズはない時代。一人で基本的に徒歩でインドに向かうなど、命がけを通り越して無謀と思われたはずです。

途中、砂漠もあるし山賊も出る。しかし、三蔵は、その悲惨な旅を見事にやり遂げ、たくさんの経典をもって帰ってきました。

当時の人々は、歓喜したと思います。

戻ってきた三蔵法師に時の皇帝、太宗(超有名人です)が旅行記を書かせました。実際は、三蔵の口述を弟子が書き取ったものらしいですが、それが「大唐西域記」として現在に伝わっています。さすがに孫悟空は出てきませんが、当時の世界の様子を知る貴重な資料になっています。

古本市をうろうろしていると、この「大唐西域記」がよく並べられています。小学生の枕ぐらいある分厚い本です。たいてい 500 円程度の値札が付いています。いよいよ GW。気合を入れて読んでみては。ちなみに、私の本棚に何年も並べられたままで、まだ読んでいません。